

マルチコーナレフレクタアンテナ

1962 年（昭和 37）、混信を著しく軽減できるマルチコーナレフレクタアンテナを開発・実用化した。回線障害の原因となる混信を軽減する手段として、低サイドローブアンテナが必要となり、マルチコーナレフレクタアンテナと名付けた反射器を持つアンテナを考案した。61 年よりマイクロ波による模型実験を行った。これによりサイドローブレベルを著しく減少できるめどがつき、小室受信所（埼玉県）に建設を開始し、62 年に完成した。さらに、改良した結果、10MHz 以上においても従来のアンテナより優れた特性が得られるようになり、63 年から対米通信に使用して好成績を上げた。

出典：KDD 社史